

令和 8 年 5 月 食品ロス実態調査報告書
秋田市食品ロス実態調査報告書

令和 8 年 7 月 1 0 日 発行

1 実施概要

■実施日時	令和 8 年 5 月 2 1 日（木）、2 2 日（金）
■作業場所	秋田市総合環境センター
■作業時間	8：30～17：00（昼食休憩 1 時間、準備片付け含む）
■作業体制	秋田市職員のべ 1 3 名（地域別家庭ごみ組成調査） 受託業者職員のべ 6 名（食品ロス調査）
■調査資料	・表記調査と同日に行う「地域別家庭ごみ組成調査」の調査資料である家庭ごみ 100 袋のうち、生ごみに分別された試料を「食品ロス実態調査」の調査試料とした。 ・調査資料である 100 袋の地区別の収集数は、中央、東部、西部、南部、北部、河辺・雄和の 6 地区の人口構成比により以下のとおりとした。 【5 月 2 1 日】 中央（檜山 11 袋）、東部（東通 10 袋）、西部（新屋元町又は日吉町 5 袋）、南部（御所野 8 袋）、北部（下新城中野 6 袋、金足 6 袋）、河辺・雄和（河辺 4 袋） 【5 月 2 2 日】 中央（川尻 6 袋、大町 6 袋）、東部（添川 4 袋、旭川 4 袋）、西部（新屋勝平町 6 袋）、南部（上北手 8 袋）、北部（飯島 12 袋）、河辺・雄和（雄和 4 袋） ・調査資料の重量は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」で示している「100 世帯分程度のごみ袋又は生ごみで 100kg～150kg 程度」としていることを踏まえ、上記 100 袋に含まれていた生ごみ約 100kg とした。

2 調査方法

調査方法は、国の「家庭系食品ロスの発生状況の把握のためのごみ袋開封手順書」に従って以下のとおり実施した。

(1) 試料採取

各地区の収集を担当する委託業者の運転員が、それぞれ当該地区のごみ集積所から、予備の袋も含め無作為に採取し、破袋しないよう作業所まで運搬、到着後、必要袋数を市職員が無作為に抽出した。

(2) 作業内容

- ・調査対象となる 100 袋に含まれる各地区ごとの食品廃棄物（生ごみ）の重量を計量した。
- ・食品廃棄物のうち、手付かず食品（100% 残存・50% 以上残存・50% 未満）と食べ残し、調理くず、その他に分類し、重さを計量した。
- ・手つかず食品の賞味期限および消費期限を確認した。

3 調査結果

(1) 試料中の食品廃棄物の割合

調査対象とした試料について（図表 1）、6 地区の 100 袋の合計重量は、309.5kg、1 袋あたりの平均重量は約 3.1kg であった。

図表 1 調査対象とした試料概要（秋田市）

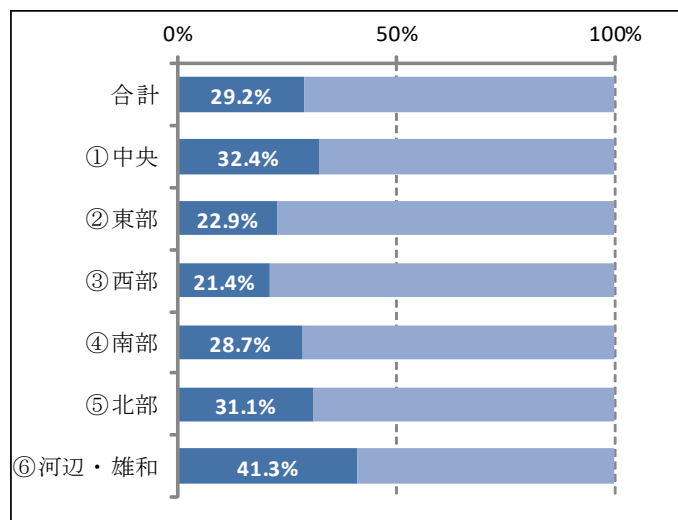
	袋数（個）	重量（kg）	容量（L）	袋あたり	
				重量（kg）	容量（L）
合計	100	309.5	3,435	3.1	34.4
①中央	23	79.5	890	3.5	38.7
②東部	18	64.4	620	3.6	34.4
③西部	11	35.1	425	3.2	38.6
④南部	16	44.7	470	2.8	29.4
⑤北部	24	57.9	740	2.4	30.8
⑥河辺・雄和	8	27.8	290	3.5	36.3

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

試料中の食品廃棄物の割合について（図表 2）、6 地区の合計割合では、29.2% となっている。

地域別に見ると、⑥河辺・雄和が最も高く 41.3%、次いで①中央の 32.4%、⑤北部の 31.1%、④南部の 28.7%、②東部の 22.9%、③西部の 21.4% となっている。

図表 2 試料中の食品廃棄物の割合（秋田市）



	サンプリング試料 A (kg)	うち、食品廃棄物 B (kg)	食品廃棄物割合 C (=B/A)	食品廃棄物以外 D (=1-C)
合計	309.48	90.31	29.2%	70.8%
①中央	79.51	25.73	32.4%	67.6%
②東部	64.41	14.73	22.9%	77.1%
③西部	35.11	7.50	21.4%	78.6%
④南部	44.72	12.85	28.7%	71.3%
⑤北部	57.92	18.01	31.1%	68.9%
⑥河辺・雄和	27.81	11.49	41.3%	58.7%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの

(2) 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合

食品廃棄物のうち、調理くずを除く、直接廃棄および食べ残しを食品ロスとする。

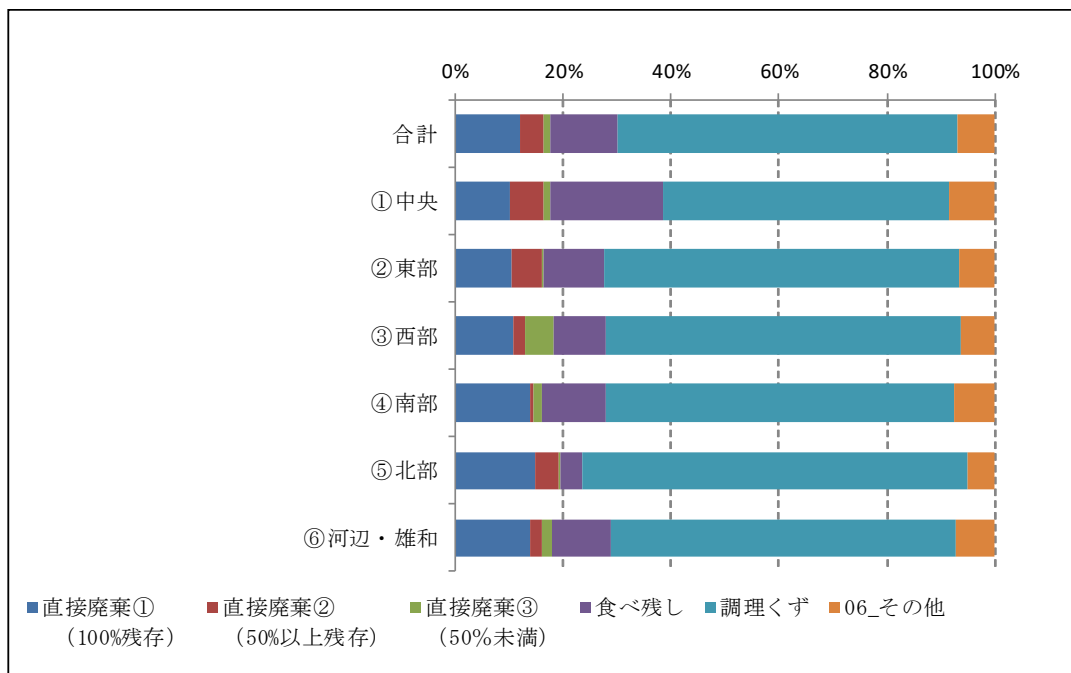
食品廃棄物のうち食品ロスの重量割合について（図表 3）、6 地区の合計割合では 30.1%となっている。

地区別に見ると①中央が最も高く 38.5%、次いで⑥河辺・雄和の 28.9%、③西部と④南部がともに 27.9%、②東部の 27.5%、⑤北部の 23.4%となっている。

直接廃棄に着目すると、6 地区の合計割合では、まったく手付かずの直接廃棄（100%残存）は、食品廃棄物のうち 12.2%を占めており、⑤北部で 14.8%と高く、次いで④南部が 14.0%、⑥河辺・雄和が 13.9%、②西部が 10.7%、②東部が 10.5%、①中央が 10.1%となっている。

同様に、食べ残しに着目すると、6 地区の合計割合では 12.4%となっている。①中央が 20.8%と高く、次いで④南部が 12.0%であり、⑤北部が最も低く 3.8%となっている。

図表 3 食品ロス（直接廃棄、食べ残し）の割合（秋田市）



	食品ロス割合	うち直接廃棄（手付かず）			うち食べ残し
		100%残存	50%以上残存	50%未満残存	
合計	30.1%	12.2%	4.2%	1.4%	12.4%
①中央	38.5%	10.1%	6.2%	1.3%	20.8%
②東部	27.5%	10.5%	5.8%	0.3%	11.0%
③西部	27.9%	10.7%	2.4%	5.1%	9.7%
④南部	27.9%	14.0%	0.7%	1.3%	12.0%
⑤北部	23.4%	14.8%	4.4%	0.5%	3.8%
⑥河辺・雄和	28.9%	13.9%	2.2%	1.9%	10.8%

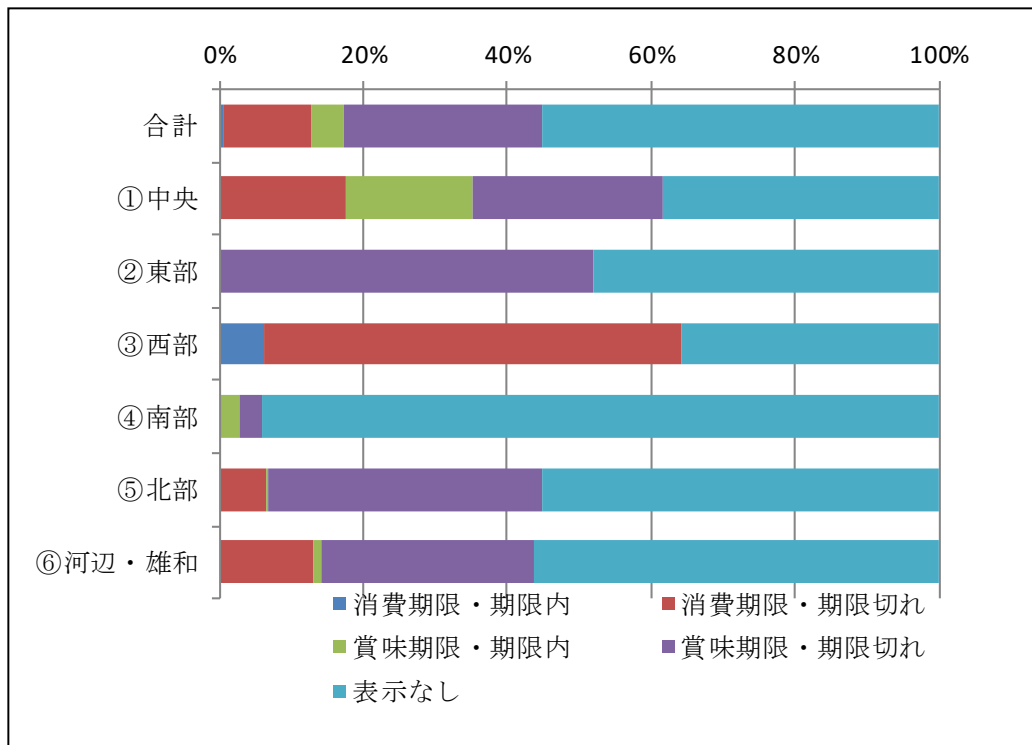
※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、食品ロス割合の内訳（直接廃棄・食べ残し）の合計は、食ロス割合と合致しない場合がある。

(3) 直接廃棄されたものの消費・賞味期限について

直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表4）、6地区の合計割合では「表示なし」が最も多く55.5%であり、消費期限の表示があったものは12.1%（期限内はなしで、期限切れが12.1%）、賞味期限の表示があったものは32.4%（期限内が4.8%、期限切れが27.6%）となっている。

消費期限に着目すると、（100%手付かず）のうち「期限内」のものはなしで、「期限切れ」については、③西部地区で最も高く61.9%であった。賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄（100%手付かず）のうち4.8%、地区別に見ると①中央地区が最も高く17.7%であった。

図表 4 直接廃棄（100%手付かず）の消費・賞味期限について（秋田市）



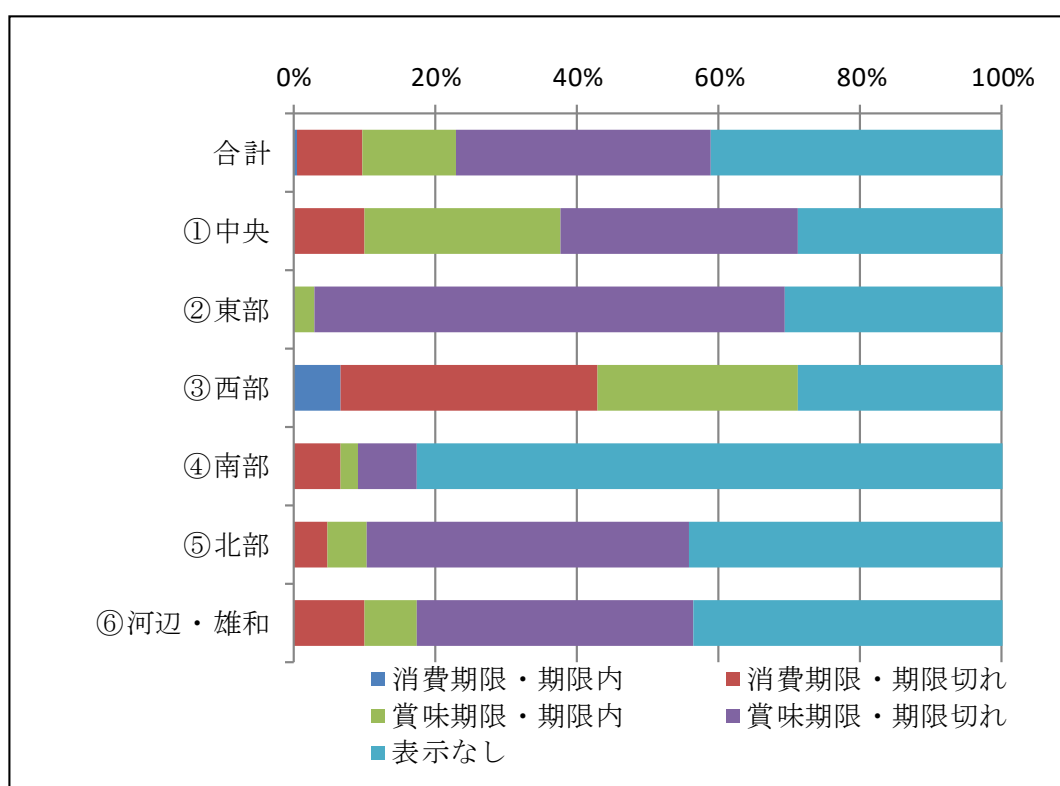
	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.0%	12.1%	4.8%	27.6%	55.5%
①中央	0.0%	17.5%	17.7%	26.5%	38.4%
②東部	0.0%	0.0%	0.0%	51.9%	48.1%
③西部	0.0%	61.9%	0.0%	0.0%	38.1%
④南部	0.0%	0.0%	2.8%	3.1%	94.2%
⑤北部	0.0%	6.6%	0.2%	38.0%	55.2%
⑥河辺・雄和	0.0%	13.1%	0.9%	29.7%	56.3%

※合計は、6地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が100%にならない場合がある。

同様に、直接廃棄全体（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）での消費・賞味期限の記載状況・期限について（図表 5）、6 地区の合計では「賞味期限（期限切れ）」が最も多く 35.9%であり、消費期限の表示があったものは 9.8%（期限内は 0.6%、期限切れ 9.2%）、賞味期限の表示があったものは 49.1%（期限内 13.2%、期限切れ 35.9%）となっている。

賞味期限に着目すると、「期限内」のものが直接廃棄のうち 13.2%となっている。地区別に見ると③西部地区が最も高く 28.2%となっている。

図表 5 直接廃棄（合計）の消費・賞味期限について（秋田市）



	消費期限		賞味期限		表示なし
	期限内	期限切れ	期限内	期限切れ	
合計	0.6%	9.2%	13.2%	35.9%	41.2%
①中央	0.0%	10.0%	27.6%	33.6%	28.8%
②東部	0.0%	0.0%	3.1%	66.4%	30.5%
③西部	6.6%	36.3%	28.2%	0.0%	28.9%
④南部	0.0%	6.6%	2.4%	8.5%	82.4%
⑤北部	0.0%	4.9%	5.5%	45.5%	44.1%
⑥河辺・雄和	0.0%	10.1%	7.2%	39.1%	43.5%

※合計は、6 地区の調査結果を足して算出したもの。いずれも重量ベースであり、端数の関係上、合計が 100%にならない場合がある。

(4) 一人 1 日当たりの食品ロス発生量

調査結果を踏まえて、令和 7 年度の実績を参考に一人 1 日当たりの食品ロス発生量を推計すると 40.8g/人・日となり、その内訳を見ると直接廃棄（100%手付かず、50%以上残存、50%未満残存）が 24.0g/人/日、食べ残しが 16.8g/人・日と推計された。

図表 6 一人 1 日当たりの食品ロス発生量（秋田市）

